

1日目②「ジェンダー平等の視点と防災」

2024年4月13日（土）クレオ大阪東にて

講師：沢田薫（当財団理事兼事務局次長）

講座の内容は主に2つで構成しており、一つ目は、「防災・復興のあり方として、安全・安心をどう考えるのか」、二つ目は、「ジェンダー平等の視点で防災・復興を考える」です。

「防災・復興のあり方として、安全・安心をどう考えるのか」では、COVID-19のパンデミックの際の国連事務総長のメッセージ「女性・女児をCOVID-19への対応の中心に」を紹介し、女性の権利がないがしろにされているとともに女性の機会を奪っている現実を伝え、各国政府に対し強く要請したことを紹介しました。

また、今年元日に発生した能登半島地震への内閣府男女共同参画局の対応や実際に起きている女性の困難が繰り返されたケースを紹介しました。そのうえで、平常時にできないことは、災害時にはなおさらできないことや平常時から男女共同参画の視点に立った防災・復興施策が大事と力強く伝えました。



次に、「ジェンダー平等の視点で防災・復興を考える」では、「ジェンダーとは」の定義を「社会的・文化的に形成された性別のこと」と説明し、「ジェンダー平等の視点とは」の定義を「男女間での不均衡、不利益や格差がないように、中立的に、平等に、公平・公正にということ」と説明しました。ジェンダー平等についてより身近に考えてもらうために、生活の様々な場面でのジェンダーに関する違和感について、二人一組でインタビューし合い、その対応・対策についてグループで話し合いました。そこでは、「自分の内面的な意識も変えたい」、「女性の仲間を増やしたい」などの意見が出ました。さらに、誰もが潜在的にもっている無意識のバイアスについて、女性の参画を妨げることとして、身内意識、ステレオタイプ、マイクロアグレッション（些細な侮辱）としてパターン化して、事例を用いてわかりやすく解説しました。

これらの視点を学んだうえで、災害時に起こった様々な課題（性別によるニーズの違いに配慮されないことや性別による役割の偏り、ジェンダーに基づく暴力など）について、内閣府が作成した避難所チェックシートと照らし合わせながらとるべき対応を解説しました。

最後に、「ジェンダーの主流化」として、社会課題のあらゆるテーマに共通する課題としてジェンダーがあること、さらに防災・復興も同じく共通する課題であることを説明しました。災害時には、平常時における社会の課題が一層顕著になって現れます。結局、私たちはどのような社会をめざしていくのかをフェーズフリーで考えていくことを呼びかけました。

